

経口抗がん薬の過少投与を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、化学療法開始予定患者のカルテを確認することで、経口抗がん薬の過少投与を回避し、薬物治療効果の向上に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶化学療法導入目的で入院された患者 体表面積 1.53m²、中等度腎機能低下あり

【開始予定の化学療法】

CapeOX+Pembro 療法（カペシタビン、オキサリプラチン、キイトルーダ）

【入院処方（一部抜粋）】

カペシタビン錠 300mg 1 回 2 錠、1 日 2 回（朝・夕食後）

※カペシタビンは C 法で開始予定（C 法：体表面積 1.36m²～1.66m²では 1 回 1,500mg、1 日 2 回）¹⁾



A さん

A さんに開始予定となっているカペシタビンですが、1 回投与量が 600mg で処方されており、過少用量となっております。添付文書上、C 法であれば A さんの体表面積では 1 回 1,500mg になります。ただ、A さんは中等度の腎機能低下があるようですので、1 回 1,200mg に減量して投与されますでしょうか^{2,3)}。

腎機能低下があるので、1 回 1,200mg で処方する予定でした。確認ありがとうございました。すぐに処方を出し直します。

ありがとうございます。
それでは A さんに、カペシタビンは 1 回 4 錠(1,200mg)で服用するように説明しておきます。



医師



薬剤師

その後、速やかにカペシタビン錠は 1 回 4 錠、1 日 2 回（朝・夕食後）で処方され、適切な用量で化学療法が開始され、同用量で継続したまま退院となった。化学療法開始予定患者のカルテを確認することで、経口抗がん薬の過少投与を回避し、薬物治療効果の向上に貢献できた。

参考文献：1)カペシタビン錠添付文書
2)改訂第 8 版 がん化学療法レジメンハンドブック
3)がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022